



東京大学高齡社会総合研究国際卓越大学院

WINGS-GLAFS

World-leading Innovative Graduate Study Program in Gerontology
:Global Leadership Initiative for Age-Friendly Society

2023年度プログラム履修生募集 募集期間は9月11日(月)～20日(水)17時

【プログラムについて】

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齡社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齡社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齡者を研究対象とする方に限らず、高齡社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、幅広く募集します。

【募集の対象】（募集人数10名）

・修士1年：2023年4月入学者、2023年10月入学者

※ただし、下記に示すプログラム参画専攻に在学し、かつ博士課程進学を決意している方

【工学系研究科】全専攻

【人文社会系研究科】社会文化研究専攻

【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻

【法学政治学研究科】総合法政専攻

【総合文化研究科】広域科学専攻

【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻

【医学系研究科】国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻

【新領域創成科学研究科】人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、国際協力学専攻

【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻

【学際情報学府】学際情報学専攻

・博士1年：2023年4月入学者、2023年10月入学者

※ただし、下記に示すプログラム参画専攻に在学している方

【先端学際工学専攻、獣医学専攻、社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻】

【プログラム内容】

(修了単位) 合計7単位

必修科目3単位 (通論2単位、演習1単位)

選択必修科目4単位 (各専攻から提供される高齡社会横断科目群より選択)

(経済的支援) 卓越RA: (修士1年度末のQEを経て)

修士2年次より博士課程まで月額18万円支給

【募集スケジュール】

8月2日(水)16:00-17:00

募集説明会 (@Zoom 録画を下記HPに掲載予定)

9月11日(月)~9月20日(水)17:00 申請書類受付期間【HPから応募フォームにて】

9月26日(火),27日(水),28日(木)

面接候補日

9月29日(金)12:00

合格発表

※募集説明会のZoom参加者はその場で質疑に参加できます。なお、募集説明会のZoomの記録は、HPで随時見られるようにする予定です。

【募集要項・応募書類・問い合わせ先】

ホームページ→

●募集要項・応募書類は、GLAFSホームページ <https://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>

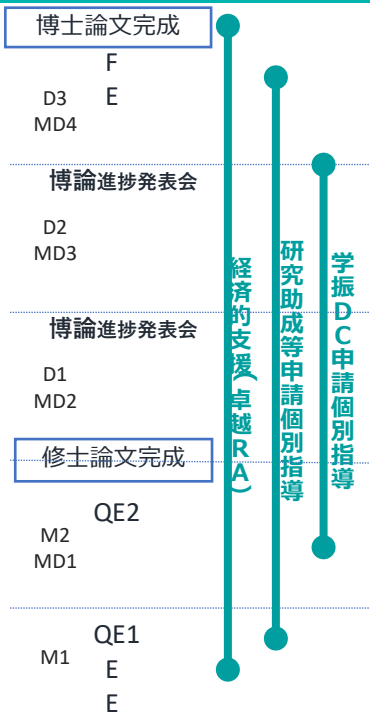
●お問い合わせ: GLAFS事務局 info@glafs.u-tokyo.ac.jp



WINGS-GLAFS

高齢社会総合研究国際卓越大学院

日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における基盤的総合知の習得・最前線での体験を通して自らの専門領域研究力の強化を図る。



日本を皮切りに世界共通の社会課題となっている「高齢社会問題」は今や、全ての学問領域の共通の研究背景となっています。

多角的・総合的に行われている高齢社会問題をめぐる基盤的総合知を体系的・効率的に学ぶことを通して、

皆さんのそれぞれの専門領域の研究の幅を広げ、研究力の強化につなげます。

専門領域研究力の高度化

現場解決力

必修1単位 高齢社会演習
高齢社会総合研究の最前線における「現場解決力」の修得

俯瞰力

必修1単位 高齢社会通論1【心と体の健康】
必修1単位 高齢社会通論2【社会環境】
日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得
※2021年度中は「高齢社会総合研究概論」

領域連携力

選択必修4単位 高齢社会横断科目群
各専攻等の提供科目を通して、自らの専門領域あるいは他の領域を超高齢社会の視点で学び考える力の修得
※2022年度から開講

民間企業、研究機関、国内海外大学等

第一線で活躍する
修了生

高齢社会
総合研究
機構
(IOG)

産業界

企業・団体
官(行政)

国・都道府
県・市区町村

地域

住民・NPO・
町内会自治会

国際

海外連携大学

9研究科・1学府

(※ 本プログラムでは現在「参画専攻の拡大」を実施中のため、新たに参画専攻が上記に加えられることがありますので、最新情報はHPでご確認ください。)
工学系研究科11専攻・医学系研究科5専攻・人文社会系研究科1専攻・法学政治学研究科1専攻・農学生命科学研究科7専攻・教育学研究科2専攻・総合文化研究科1専攻・情報理工学系研究科1専攻・新領域創成科学研究科3専攻・学際情報学府1専攻

■WINGS-GLAFS生の標準的学事歴 (修士2年+博士3年の標準型)

●履修スタート

- ・ 2023年9月30日 (土) 1400- 履修ガイダンス (既履修生とともに)
- ・ A1学期「高齢社会通論1 (必修1単位)」履修
- ・ 高齢社会横断科目群履修開始 (修士1年S学期に履修したものも算入可) (全4単位)
- ・ 高齢社会演習履修開始 (全1単位)

●修士1年A学期 3月 全体発表会 (学修進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査) 2024年3月2日 (土)

●修士2年S学期 7月 全体発表会 (学修進捗発表)

- ・ 4月 卓越RA (18万/月) 受給開始
- ・ S1学期「高齢社会通論2 (必修1単位)」履修
- ・ 4-5月 JSPS学振研究員応募【必須】 (申請書作成副指導) (卓越RA受給資格要件)

●修士2年A学期 3月 全体発表会 (学修進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

- ・ この頃までには、標準的に、履修単位取得終了。(あとは、GLAFS・IOG提供プログラムに随時参加)

●博士1年S学期 7月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

- ・ 4-5月 JSPS学振研究員応募【必須】 (申請書作成副指導) (卓越RA受給資格要件)

●博士1年A学期 3月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

●博士2年S学期 7月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

- ・ 4-5月 JSPS学振研究員応募【必須】 (申請書作成副指導) (卓越RA受給資格要件)

●博士2年A学期 3月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

●博士3年S学期 7月 全体発表会 (博論進捗発表) (QE: 卓越RA受給資格審査)

●博士3年A学期

- ・ 3月ころ 最終博論進捗発表 (専攻内での審査終了後) (FE: サーティフィケート授与資格審査)
- ・ 3月下旬 学位授与式 (WINGSのサーティフィケート (学位記に付記) 授与)

2023年度

A1ターム「高齢社会通論1」（健康とケア）（主担当：飯島）

- 第1回 ジェロントロジー総論：老いとおつきあう (飯島勝矢 IOG・未来ビジョン研究センター)
- 第2回 SDGsと教育－生涯学習時代における「学び」のあり方－(北村友人 教育学研究科)
- 第3回 老化と生物学 疾病・障害とヘルスプロモーション(孫輔卿 IOG・未来ビジョン研究センター)
- 第4回 高齢期の社会関係とwell-being (菅原育子 西武文理大学)
- 第5回 転倒・リハビリテーションの支援 (田中敏明先生 IOG)
- 第6回 人間・生活支援とテクノロジー (二瓶美里 新領域創成科学研究科)
- 第7回 都市・農村の高齢者と農業のリアリティ (八木洋憲 農学生命科学研究科)
- 11/29 第8回 人生の最終段階のケア (山本則子 医学系研究科)

S1ターム「高齢社会通論2（社会と地域）」（主担当：大月）

- 第1回 超高齢社会における住まいと地域／大月敏雄（東京大学 工学系研究科）
- 第2回 超高齢社会を地域で支える-IOGモデルのまちづくりとは／辻哲夫（東京大学 IOG）
- 第3回 高齢社会のハウジング-社会学の観点から／祐成保志（東京大学 人文社会科学研究科）
- 第4回 超高齢社会における地域への介入／李ヨングン（東京大学 工学系研究科）
- 第5回 高齢社会と成年後見制度／税所真也（東京大学）
- 第6回 Geron-Informatics／檜山敦（東京大学 先端技術研究所）
- 第7回 超高齢社会における外出環境／松田雄二（東京大学 工学系研究科）

※当該年度での開講の有無は、各自UTASでご確認ください。

例示：HP参照（なるべく「普通に取れる」科目を準備）

専攻名	科目番号	科目名	単位数	開講区分	主担当 教員名	備考
工／社会基盤学	3713-126	Urban Studies in the Post-Pandemic Era (ポストパンデミック時代の都市論E)	1			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通 科目
工／社会基盤学	3713-140	復興デザイン学	2			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通 科目
工／社会基盤学	3713-086	復興デザインスタジオ	4			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通 科目
工／建築学	3714-017	建築計画学第2	2	A1	大月 敏雄	隔年開講(奇数年度)
工／建築学	3714-039	建築計画学第6	2	A1A2	横山 ゆりか	隔年開講(偶数年度)
工／建築学	3714-112	建築計画学第7	2	S1	松田 雄二	毎年開講
工／建築学	3714-129	復興建築計画論	2	A1	大月 敏雄	隔年開講(偶数年度)
工／建築学	3714-019	建築計画学第4	2	S1S2	本間 裕大	隔年開講(奇数年度)
工／建築学	3714-167	復興デザイン学	2	S1S2	大月 敏雄 他	毎年開講
工／建築学	3714-136	復興デザインスタジオ	4	S1S2	大月 敏雄	毎年開講
工／都市工学	3716-001	都市計画特論第1	2	S1S2	小泉 秀樹	
工／都市工学	3716-151	都市計画特論第3	2	S1S2	村山 顕人	
工／都市工学	3718-011	都市空間政策特論第3	1	S1S2	大月 敏雄	
工／都市工学	3718-013	都市空間政策特論第5	1	S1S2	小泉 秀樹	
工／都市工学	3716-125	復興デザイン学	2	S1S2	横張 真 他	毎年開講
工／都市工学	3716-152	復興デザインスタジオ	4	S1S2	横張 真 他	毎年開講

高齢社会演習

2023年度 プログラムNo. 2301

「フレイル予防」

■**担当教員**：飯島勝矢（未来ビジョン研究センター・教授）、孫輔卿（未来ビジョン研究センター・特任講師）
田中友規（高齢社会総合研究機構・特任助教）

■**概要**：

人生100歳時代を迎えて、高齢者が安心して住み慣れた地域で自分らしく生きるためには、「健康増進～フレイル（虚弱）予防」が重要であり、そのための地域での戦略的な展開が必要である。そのなか東大IOGでは地域住民主体のフレイルチェック活動を開発し、担い手であるフレイルサポーター（地域高齢者）を養成することで、参加高齢住民とともにフレイルの兆候に気づき、フレイル予防活動を持続的に行える地域プログラムを開発した。

2023年度のフレイル予防の演習は現在、進めている科学技術振興機構（JST）・未来社会創造事業（研究課題名：新価値‘IKIGAI’駆動による社会貢献活動の個人最適化）の一環として実施する。具体的には定例全体会に参加し、JST研究の目的である地域貢献活動の担い手（例：フレイルサポーター）が活動を通じて感じる生きがいを新価値IKIGAIの概念で再構築し、その人の行動情報から計測・定量化するプロセスを研究進捗報告で理解する。最終的には本研究の目標である地域活動を通じた生きがいの可視化、生きがい向上の介入策開発や新たな担い手の確保など超高齢社会の地域課題解決に挑戦する総合知（人文、情報理工、工学系、老年医学）の研究取組みに参

■**日程**ことで、自分の研究の考え方、分野横断連携の在り方を学ぶ。

4/1（土）15:00-16:30 (1.5h) 実習全体ガイダンス

4/11（火）15:30-18:30 (3h) フレイル予防実習ガイダンス＋JST-MIRAI全体会議

5/16（火）16:00-18:30 (2.5h) JST-MIRAI全体会議

6/6（火）16:00-18:30 (2.5h) JST-MIRAI全体会議

7/11（火）16:00-18:30 (2.5h) JST-MIRAI全体会議

日程調整中 地域在住高齢者との交流会（3h予定：現場体験）

■**留意事項**：

- ・上記プログラム出席希望者は必ずフレイル予防ガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・各全体会議への出席希望者は、（孫）son@iog.u-tokyo.ac.jpへ連絡すること。
- ・10名程度を1回の履修限度とする。

高齢社会演習 2023年度 プログラムNo. 2302 「めじろ台」

■担当教員：大月敏雄（工学系建築学専攻・教授）、李ヨングン（工学系建築学専攻・助教）

■概要：

八王子市めじろ台地区は 1970 年代から戸建て住宅を中心として開発された住宅地であるが、急激な高齢化が進行している。ポスト超高齢社会を見据えた根本的なまちづくりの計画と実践を目指して、地元自治会をベースに 2019 年に設立された「めじろ台まちづくり協議会」に外部支援者として参加し、住民と共にまちづくりを考え、実践する。

■日程（※予定なので、変更の可能性あり。ガイダンス受講者に、お知らせします）

<以下は2023年度 S セメスター入点分。>

5/28 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
6/25 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
7/23 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会

<以下は2023年度 A セメスター入点分。>

8/27 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
9/24 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
10/29 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
11/26 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
12/24 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
1/28 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
2/25 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
3/24 日 1300-1600 (3h) まちづくり協議会
※2月、3月分は、翌年度Sセメスターに参入

■留意事項：

- ・レポートの提出は、協議会等の実施日から1週間以内。
- ・本プログラムに初めて参加する人は必ず「めじろ台ガイダンス（1時間：1P、録画）」を受講すること。なお、ガイダンス受講については、大月に連絡のこと。
- ・上記協議会の分科会等の形で実施される各種会合に参加した場合も、上記と同様にプログラムの対象とする場合があるが、その際は事前に大月に相談すること。
- ・Zoom か現地かのいずれかで実施予定。
- ・現地開催の場合、各自の交通費は、別途支給するので、この場合はすぐに大月に連絡すること。
- ・連絡先：（大月）bigmoon7505@gmail.com （李）lee.yonggeun@gmail.com

高齢社会演習

2023年度 プログラムNo. 2303

「G-tech」

■**担当教員**：二瓶美里、菅原育子、藤崎万裕、三浦貴大、藪謙一郎、吉田涼子、吉崎れいな、カンスーイン、伊藤研一郎

■概要：

近年、高齢化社会に起因する社会的課題に対して、AIやIoTの利活用による課題解決に関心が向けられている。一方で、活力ある高齢者が増加するとともに高齢者の生活スタイルやニーズも多様化しているため、用途に特化したソリューションでは高齢者の生活を十分に支援できないことが明らかとなっている。そのため、高齢者が自律的に自身の課題解決に取り組める柔軟性を持った社会実装のあり方について検討する必要がある。本演習では、高齢者が直面する生活課題を解決するのに、高齢者が自律的なQoL向上を目指すことが可能な生活支援ICTシステムの社会実装の検討を行う。具体的な活動としては、①**高齢者の生活スタイルとニーズを理解するヒアリング調査などの活動**と、②**実証実験を通じた社会実装の検討の活動**である。AIやIoTのみならず、VRやメタバースなどの最先端のテクノロジーを活用した座学やプロジェクトの聴講などを演習の対象とする。具体的にはジェロントロジー・アカデミーのいくつかの講義や研究プロジェクトへの参画や、共創センターやVR教育研究センターの活動も一部含める。また、プログラムを主体として得られた調査結果は学生を主体として論文執筆・国際会議発表をサポートし、著者や発表者の活動もプログラムに含める。

■日程：

04/03 2000 – 2100 (1h) G-techガイダンス@ライブラリ
04月 日程別途調整(3h) 模擬住居見学会@柏の葉・第二総合研究等
06月 日程別途調整(3h) ライフログ・データ可視化予備実験
07月 日程別途調整(3h) 調査実験
08月 日程別途調整(3h) 調査・実験データ分析・論文執筆
09月 日程別途調整(3h) 秋学期まとめ・春学期計画の相談会議
日程別途調整 (3h) ジェロントロジー・アカデミー『情報とシステム』
日程別途連絡 (3h) ジェロントロジー・アカデミー『ジェロンテクノロジー』

■留意事項：

- ・上記プログラム出席希望者は必ずG-techガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・調査活動や実証実験の計画・準備会議（ライブラリ/zoom開催）などに参加すること
- ・日程が決まっていないところは、履修者と相談しながら決定予定
- ・交通費、研究活動経費は別途支給
- ・履修希望者は伊藤（k.ito@iog.u-tokyo.ac.jp）・吉崎（r.yoshizaki@mfg.t.u-tokyo.ac.jp）まで連絡をすること

高齢社会演習 2023年度 プログラムNo. 2304 「リビングラボ」

■担当教員：秋山弘子（高齢社会総合研究機構客員教授）、吉田涼子（高齢社会総合研究機構学術専門職員）

■概要：

リビングラボとは、生活の現場（住んでいる自宅、地域など）において、企画段階から住民を巻き込み、企業、自治体、大学、各種団体等が互いの強みを持ちより、生活者起点で暮らしを豊かにする製品やサービス、社会の仕組み等の新たな価値を共創する活動です。東京大学高齢社会総合研究機構は、鎌倉市、今泉台町内会、NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台、三井住友FG等と「鎌倉リビングラボ」を運営し、高齢社会の課題を解決するものやサービスを創り出す活動を行ってきました。

本実習では、大学・自治体・企業・組織等の約400団体900名が登録し、リビングラボに関する研究発表や意見交換、交流を行う「リビングラボ研究交流会」への参加機会を提供します。

その他、リビングラボに関するイベント、テストベッドにおけるワークショップやインタビュー等への参加機会も提供します。

■日程：

リビングラボ研究交流会は年2-3回開催を予定。日時が決まり次第メールにて告知。実施はオンラインまたは本郷キャンパス。

リビングラボイベントの開催日時は未定。日時が決まり次第メールにて告知。原則現地（鎌倉市内）での参加。

■留意事項：

- ・現地開催の場合、交通費は別途支給する。
- ・リビングラボ研究交流会への参加は上限なし。
- ・リビングラボイベントやテストベッドにおける活動は参加上限を設定する場合がある。
- ・告知・募集はhomeroom@を経由して行う。問い合わせ先：吉田 (yoshida@iog.u-toko.ac.jp)

高齢社会演習

2023年度 プログラムNo. 2305

「ジェロントロジー・アカデミー共同研究」

■**担当教員**：飯島勝矢（未来ビジョン研究センター・教授）、辻哲夫（高齢社会共創センター・客員研究員）、田中友規（工学系・特任助教）、田中康夫（工学系・学術支援専門職員）、神谷哲朗（工学系・学術支援専門職員）、高瀬麻以（工学系・特任研究員）

■**概要**：

IOG が推進する東京大学ジェロントロジー産学連携プロジェクトのプログラムである、ジェロントロジー・アカデミー ジェロアカ が、企業人と研究者を繋ぎ、連携していくための双方向の連携の場として 2020 年度から設定された。本プログラムでは、ジェロアカへの参加を通して、ジェロントロジー研究が社会実装へ向けて応用されてゆくプロセスを体験的に理解する。

■**日程**：

別紙参照

■**参加方法**：

ジェロントロジーアカデミーのご担当（田中康夫様、井口様、葛谷様）より、homeroom@にご案内があります。そこに記載してある方法に準じて申し込み・ご参加ください。

■**留意事項**：

- ・ 日誌の提出は、アカデミー終了後、Google Formからそれぞれ行ってください。 抜けがあった場合には、ポイントにカウントされませんので、お忘れなくお願いいたします。
- ・ 当日、都合により欠席の連絡が高瀬の方に(takase@iog.u-tokyo.ac.jp)あった場合にのみ、個別にフォローアップ配信を致します。

高齢社会演習 2023年度 プログラムNo. 2305 「ジェロントロジー・アカデミー共同研究」

ジェロントロジー産学連携プロジェクト年間予定表（前期）

原則としてアカデミーは14-17時、サロンは15時-17時に開催

		共同研究	アカデミー	事業地視察会	サロン	アーカイブ勉強会	GLAFS講義参加
4月	上旬						
	中旬	開講式(4月13日(木)14-17時				↑	
	下旬				21日(金)アクティブヘルス&ケア		
5月	上旬		11日(木)アカデミー1				
	中旬	事業地視察(まちづくり)					
	下旬		26日(金)アカデミー2			アカデミー動画	
6月	上旬		6日(火)アカデミー3			Youtube配信	
	中旬				21日(水)アクティブヘルス&ケア		↑
	下旬		29日(木)アカデミー4		企業紹介 1		
7月	上旬		4日(火)アカデミー5				
	中旬	事業地視察(地域包括ケア)					
	下旬		25日(火)アカデミー6			↓	講義聴講
8月	上旬		1日(火)アカデミー7				
	中旬				21日(月)アクティブヘルス&ケア		
	下旬		25日(金)アカデミー8				
9月	上旬						
	中旬				交流会 1		
	下旬		29日総括会				↓

※サロン(ライフデザイン)は原則毎月開催



高齢社会演習 2023年度 プログラムNo. 2306



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

US-Japan Program on Healthy and Resilient Aging 2023 Program Roundtable Session with University of Tokyo Institute of Gerontology

■担当教員：Katsuya Iijima, Toshio Otsuki

■概要：

This session aims to have both the members of University of Tokyo's Institute of Gerontology and JCIE's delegation from Columbus Ohio share their knowledge and expertise. While the roundtable will feature presentations from both sides, the focus should be on building toward an organic discussion that will promote mutual learning. Some questions that the roundtable is intended to address include:

1. What is the role of academic institutions such as the Institute of Gerontology and the Age-Friendly Innovation Center in promoting healthy aging in the community and how can this best be achieved?
2. What is the value of frameworks such as the WHO's 8 domains of age-friendly communities or the Institute of Gerontology's eight pillars in accomplishing their goals? What elements might be missing from either or both frameworks that can be highlighted through this discussion?
3. What are some specific programs taking place in Ohio or Tokyo that have the potential to improve the work being carried out in either location. Some examples might include the University of Tokyo's focus on frailty prevention or Ohio State University's age-friendly scholars program.

■日程：May 22, 13:00-16:00

■場所：University of Tokyo, Hongo Campus, School of Engineering, Building 8, 7th floor

■留意事項：

This event will mainly be hosted in English

No pre-registration is required

3pt will be given if students fully participate in this event

「米国メリーランド大学との若手交流会」

■担当教員：

飯島勝矢（未来ビジョン研究センター/高齢社会総合研究機構機構長・教授）、孫輔卿（未来ビジョン研究センター・特任講師）、田中友規（高齢社会総合研究機構・特任助教）

■概要：

米国メリーランド大学のジェロントロジー分野も含めた若手学生との交流会

訪問予定者：メリーランド大学副学長Flavius Lilly教授、山下たかし教授、Diana Martin教授、選抜された修士・博士学生（11名/専門分野：医学、分子医学、看護学、公衆衛生学、老年学、緩和ケア学、フィジシャン アシスタント、ソーシャルワーカー）

■内容・開催日時：

6/20（火）10:00-12:00（2h）日米での若手交流会

スケジュール（予定）

10:00-10:15 自己紹介

10:15-11:30 プレゼンテーション又は講義（各10-15分）

11:30-12:00 質疑応答

■開催場所：

工学部8号館702号室（ライブラリ）

■参加方法：

参加希望者は、【6月13日(月)まで】にinfo@glafs.u-tokyo.ac.jpにご連絡ください。

参加された場合はGLAFS演習2ptの獲得になります。

*参加時間数によって、ポイント数は変わります。

*参加後に高齢社会演習のレポートを提出ください。

レポート提出フォーム：<https://forms.gle/ye52jZ4nxbqYoXC9>



高齢社会演習 2023年度 プログラムNo. 2308 2023 International Workshop in Northern Europe



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

■担当教員：Toshio Otsuki

■概要：

Please see attached file or https://gmsi.t.u-tokyo.ac.jp/src/2023WS_Northern_Europe.pdf for details.

■日程：2023/9/13 (Wed) – 9/21 (Thur)

■場所：KTH Royal Institute of Technology, Furhat Robotics, Alato University, Company in Helsinki

■留意事項：

- Only students from WINGS program are eligible for application. Students from the former curriculum can not apply.
- Airline fees and hotel feeds will be covered.

• **Due to the limited number of participant slots, WINGS-GLAFS will conduct applicant interview prior to the former registration. DO NOT SUBMIT directly to the GMSI Office until you receive a notice from the WINGS-GLAFS Office.**

• **Please contact WINGS-GLAFS Office (info@glafs.u-tokyo.ac.jp) to show your will of participation (deadline 2023/5/30).**

• **After interview with WINGS-GLAFS Office**, students will be able to submit the form to the GMSI Office via URL below.
(GMSI Office application submission URL: <https://www.dropbox.com/request/Qur3aeoZMR6AFF6ftzXM>)

Since the deadline is close, students are encouraged to refer to the home page of the workshop and start preparing the application documents.

- 13pt will be given if students fully participate in this event.

Please register the points from this form: <https://forms.gle/ye52jZ4nxgbqYoXC9>

- Those who participated are required to give presentation report about the event after returning to Japan.

高齢社会演習

2023年度 プログラムNo. 2309

「縮小居住グローバル・セミナー」

■担当教員：

祐成保志（人文社会系研究科・社会学/高齢社会総合研究機構 副機構長・准教授）

■概要：

世界中の都市で、小さな空間が大きなビジネスになっている。都市では、私生活のための空間を縮小する居住形態が広まってきた。本セミナーは、この「縮小居住」（shrinking domesticities）という現象についての研究論集『The Growing Trend of Living Small』（Routledge, 2023）を刊行した、イギリスの研究者たちと共同で企画したものである。同書は、欧州と北米の事例を扱っている。東京でのセミナーでは、アジアの諸都市に視座を据えて、全地球規模ですすむ縮小居住現象について討議を行うことを目的としている。

■内容・開催日時：

2023年7月17日（月・祝）

（詳細については、別途ご案内しているメール内の添付ファイル参照）

■開催場所：

東京大学本郷キャンパス 法文1号館315教室（予定）

■参加方法：

7/17(月)の公開ワークショップに参加を希望される方は、【7/10(月)まで】に祐成保志 sukenari@i.u-tokyo.ac.jp まで、氏名、所属、関心分野、参加予定時間帯をお知らせください。

終日参加された場合はGLAFS演習6ptの獲得になります。

* 参加時間数によって、ポイント数は変わります。

* 参加後に高齢社会演習のレポートを提出ください。

レポート提出フォーム：<https://forms.gle/ye52jZ4nxbqYoXC9>



高齢社会演習
2023年度 プログラムNo. 2310
IARU Aging Longevity and Health Initiative Research
Conference



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

■担当教員：飯島勝矢、大月敏雄

■概要：詳細は別紙参照

■日程：2023年10月16-18日

■場所：東京大学本郷キャンパス内（申込者には詳細の情報をお送りいたします）

■留意事項：

1. 申し込み方法⇒2023年8月7日（月）までに、WINGS-GLAFS事務局（info@glafs.u-tokyo.ac.jp）まで、氏名、所属、学年をご連絡ください。
2. 基本的には3日間の参加ができることを条件とします。
やむを得ず抜けるタイミングがある場合は、予めご相談ください。
3. 演習ポイントは参加した時間数に応じて付与します（1時間=1pt）。
正確な見込み時間数はプログラムが確定した後に通知いたします。
ただし、懇親会は含みません。

IARU Aging Longevity and Health Initiative Research Conference

参加者の募集

IARU (International Alliance of Research Universities) とは9か国11大学が参加する、学生の分野横断型の連携と国際的なコラボレーションに重きを置く連盟です。IARUは定期的に学生のための交流カンファレンスを開催しますが、今回は**高齢社会と長寿、健康をテーマにカンファレンス**が開催されます。

カンファレンスでは基調講演を初め、自身の研究の発表、グループディスカッションが行われます。

日程：2023年10月16日から18日

開催場所：東京大学（使用言語は英語です）

プログラムスケジュール

- 全3日間のカンファレンス
- 1日目：参加者の研究紹介
- 2日目：研究紹介、基調講演、WS
- 3日目：ネットワーキング、最終報告

*懇親会あり



参加のメリット

- ・自身の研究について、国際的な場面で意見交換ができる
- ・海外の研究生活を垣間見ることができる
- ・国際的な学生同士・若手研究者同士のつながりができる

高齢者や長寿がテーマですが、分野横断型の交流をするため、研究分野を問いません。他の分野の見解等に関しても、オープンマインドで意見交換ができる方の応募をお待ちしています。

申し込み方法：

1. 2023年8月7日（月）までに、WINGS-GLAFS事務局（info@glafs.u-tokyo.ac.jp）まで、氏名、所属、学年をご連絡ください。

問い合わせ先：WINGS-GLAFS事務局（info@glafs.u-tokyo.ac.jp）

IARUとは

International Alliance of Research Universities

9か国の11大学が参加

Australian National University,
ETH Zurich,
National University of Singapore,
Peking University,
University of California, Berkeley,
University of Cambridge,
University of Cape Town,
University of Copenhagen,
University of Oxford,
University of Tokyo,
Yale University

理念

学生の国際的な視点を育むことを目指し、将来的なリーダーの育成を行う。特に分野横断型の連携と国際的なコラボレーションに重きを置く。

学生に多様な学習の機会を提供

提携大学が学習コース、インターンシッププログラム、Novo Nordisk International Talent Program、Graduate Student Conference等を企画

参考URL:

<https://www.iaruni.org/for-students>

Society for 2050: What Science and Technology
Can Do to Build a Dynamic Aged Society

November 3, 2016

1:30pm Opening

1:50pm Keynote Speech

Dr. Sarah Harper (University of Oxford)

Dr. Mitsuaki Hirose (The University of Tokyo)

1:00pm Break

1:20pm Panel Discussions

Moderator: Dr. Hiroshi Akiyama

(The University of Tokyo)

Dr. Lone Just Rasmussen (University of Copenhagen)

Dr. Xiaoying Zheng (Peking University)

Dr. Akio Hiyama (The University of Tokyo)



100

100th Anniversary of the University of Copenhagen



INTERNATIONAL ALLIANCE OF RESEARCH UNIVERSITIES

IARU ALH Conference @University of Copenhagen

19-21 October 2022 (on-site)

基調講演



自分の研究の発表 (分野横断型)

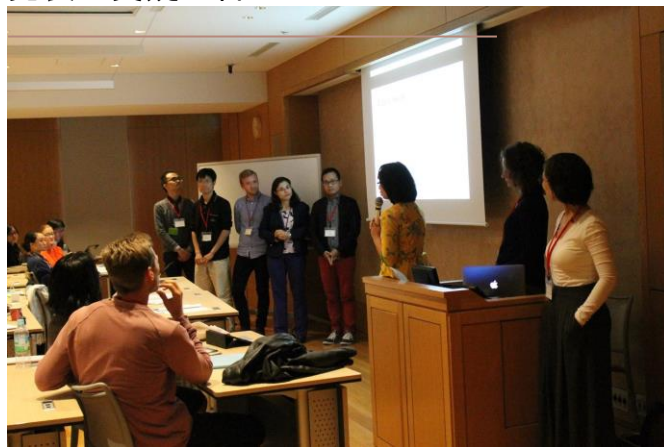


東大2016年ホスト

グループディスカッション



発表と質疑応答



現在もメンバーと繋がっている

研究を行う際に、気軽にメッセージを送って連絡を取り合える仲間がいることは、財産である



IARU参加が次へと繋がった例

University of Cambridgeからの博士後期課程の学生

・日本とイギリスの比較調査をしたく、日本でのネットワークの紹介を求めていた

⇒ University of Tokyoからの研究員のネットワークを基に、JAGESの研究室の教員とZoomで面談。本人が申請している予算と調整をしながら、調査を行うことに向けて準備。



University of Tokyoからの研究員

介護施設で提供されている食事の比較文化的な調査を行うため、海外での協力先を探していた。

⇒ 上記の学生の出身はレバノン、現在はイギリス在住であり、病棟勤務の経験があった。連携の相談を行い、前向きな意見交換をした。



Conferenceの概要

Overarching goal of the conference

- Research – Developing project ideas for funding applications and collaborations
- Capacity Building – Developing a strategy to foster discussions and collaborations among/between early and mid-careers researchers across IARU members
 - Impact – Planning to increase visibility and impact of ALH Initiative

ワークショップより挙げた、今後のコラボのテーマ

Healthy Aging Expert Survey

Physical Activity

Loneliness

What have we learned from COVID?

Integrated Care

Comparative Studies

■その他、いくつかのアクティビティについて

●工学系WINGS 特別プログラム

WINGS-CFS

未来社会協創国際卓越大学院

MERIT-WINGS

統合物質・情報国際卓越大学院

WINGS-GLAFS

高齢社会総合研究国際卓越大学院

WINGS-QSTEP

量子科学技術国際卓越大学院

に、著名企業4社からの寄附金で運営。

○工学系WINGSスペシャルレクチャー

○IARU-Aging Longevity and Health Initiative Research Conference

世界に伍するトップリーダーの育成のため、IOG（GLAFS教育母体）が従来から参加しているIARU（国際研究型大学連合：International Alliance of Research Universities）のALH分科会（Aging, Longevity and Health 飯島IOG機構長担当）で毎年行われる、世界の若手研究者が集うセミナー（一週間程度）に、WINGS学生を派遣するに当たり、参加企業にも選抜・報告に参加してもらい、実社会目線を十分に備えた、研究発表を実施する。

・必要予算：2名の旅費・宿泊費支給（昨年度コペンハーゲン大学）

※2023年度は東大で開催

（参考）昨年度開催スペシャルレクチャー↓



工学系研究科が中心部局となって運営する4つの国際卓越大学院教育プログラム（WINGS）を横断するスペシャルレクチャーを行います。企業トップによる講演に加え、参加学生とのディスカッションの時間を設けますので奮ってご参加ください。

4つのWINGSコース生はもちろんのこと、これらのWINGSに今後参加する意欲のある工学部・工学系研究科の学生を歓迎します。

本レクチャーへの参加が、WINGSプログラムの修了要件に認められる場合があります。詳細は各WINGS事務局からの連絡をご確認ください。

第1回 岩崎 真人

武田薬品工業株式会社
代表取締役 日本管掌



8月3日(水) 16:50-18:30

武田先端ビル武田ホール



第2回 勝本 徹

ソニーグループ株式会社
シニアアドバイザー
ソニーユニバーシティ 学長



8月9日(火) 13:00-14:40

工学部2号館243講義室



第3回 村岡 隆史

株式会社経営共創基盤
代表取締役CEO



8月9日(火) 15:00-16:40

工学部2号館243講義室



全ての回をオンラインにて実施することとなりました。

詳細は事前登録されたメールアドレスにご連絡いたします。



参加には事前登録が必要です。以下のフォームからお願いいたします。

<http://forms.gle/jrg1aUGpNFV6bpHe9>

締め切りを8月2日正午まで延期いたします。